



新年の等覚寺本堂内陣

# 等友

手をつなぐとも

S  
60・10  
i生

〒111-0041  
台東区元浅草  
2-10-17  
3841-2844  
真宗大谷派  
勝龍山  
等覚寺  
住職  
朝倉創

令和4年2月  
第111号  
責任編集  
朝倉 翔

当時このごろ、ことのほかに疫癘と  
てひと死去す。これさらに疫癘によ  
りてはじめて死するにはあらず。生  
れはじめしよりして定まれる定業な  
り。さのみふかくおどろくまじきこ  
となり。

えきれい

じょうごう

蓮如上人御文 四帖目九通「疫癘」  
えきれい

最近、ことに疫病で人が死んでいます。し  
かし疫病が原因で死んでいるではありません。  
せん。（死ぬことは）生まれたからには決  
まっていることなのです。いまさら大きく  
驚くことではないでしょう。

## 住職から一言

二〇二二年もあっという間に一ヶ月過ぎましたね！

皆様にお知らせが二つございます。

昨年八月、長男である謙心が京都の本山東本願寺において、得度式を受式しました。

法名は「釋 謙心（しゃく けんしん）」です。今後、合同法要にて袈裟を着た小さいお坊さんがいるかと思えますので、温かく見守っていただきたいと思います。

もう一つのお知らせは、来る二〇二三年は親鸞聖人が御誕生して八百五十年、浄土真宗が開かれて八百年にあたる年でして、記念の慶讃法要が本山にて勤まります。（三月二十五日～四月二十九日）



本山東本願寺にて

等覚寺でも本山への団体参拝ツアーを企画募集する予定でありますので、続報をお待ちください。  
（来年にはコロナが落ち着くといいいですね！）

## 法話紹介

### ◎人間の不安と安心

緊急事態宣言もようやく明けて、感染者もかなり減ってきました。でも、そのコロナによる不安というのはなかなか晴れないし、強大なものです。あるお寺のお檀家さんは、ご先祖の何回忌というタイミングでしたが、感染者が多かったため、先延ばししたいとおっしゃったそうです。その後いざ感染者数が二十人前後となったら、今度その方がおっしゃったのは、また増えるかもしれないから、やっぱりもう少し先延ばしにしたいということでした。感染者が増えるときは増えてる時で不安を覚え、減ったら減ったでその事実よりも、また増えるかもしれないということに不安を覚えてしまう、それが私達人間の姿

なのでしょう。

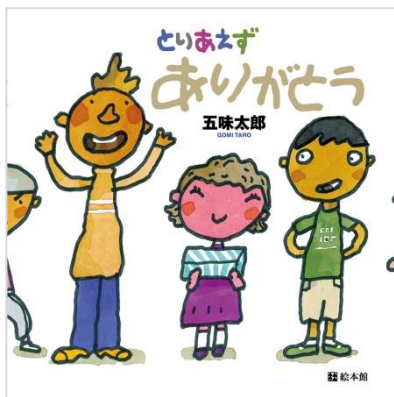
不安というのは、何から来るかというところ、  
「無知」から来る。無知だからこそ不安に感じるということがよく言われるんですね。コロナというのはまさしく未知のウイルス。今まで遭ったこともないし今まで知らなかった。やはり不安に感じるのは仕方ないんです。こういう構図があるわけですね。皆さんよくテレビや新聞でコロナのいろんな情報をご覧になってると思います。でもどうでしょう、本当に役に立つ情報ってありましたか。今日の感染者は何人だとか、ワクチンの接種率は何パーセントだとか、そんなニュースばかりで、本当に大事なこと、つまりはこのコロナ禍で私達はどう生きてらいいか、そういうことを話し合うだとか、考える、または教えてくれる、そういった番組とか情報にはなかなか出会えなかったと思うんです。本当に大事なことだと思うんですよ。コロナに罹らない



ことも大事だけど、この環境を受け入れ、その上でどう生きるべきかってことですね。そういう深いところを私達は知りたいと思っているはずなのに、なかなかその点に対してメディアは情報提供できていなかったんじゃないかということを感じました。

## ◎不安はなくなる？

有名な絵本作家の五味太郎さんのインタビューに僕自身はっとさせられました。コロナ禍において一番いいことをおっしゃってるなあと思ったのです。ある新聞記者が五味太郎さんに小学生や幼稚園生に向けたメッセージを聞いたのです。大人でさえ不安を感じてるコロナ禍で、子どもたちはもっと不安に感じているのではないかと。そしたら五味太郎さんはこのようにおっしゃいました。じゃあ一緒に考えましょう、そもそもあなたに聞くけど、コロナ禍の前は不安に思ってることなか



五味太郎さんの作品の一部  
(絵本館)

ったの？あなたは本当に安定してたの？今はたまたまコロナというものに不安の眼が全て集中してるだけじゃないの？と。これはすごく大事だと思います。今はコロナという強大な敵があって、それに対してみんな不安に思っているだけで、これがなくなったらなくなっただで、多分また普段通りの生活の中でそれぞれがいろんなことに不安を抱えてまた生きていくわけですよ。だから、コロナがあるなしで私達の生活が良くなるというわけではない。根本の問題は解決しないよってことだと思うんですね。そのことを五味さんはおっ

しゃっている。さらに続けて、不安だからこそ、この不安があるからこそ、生きてる証拠でしょっておっしゃるんですね。心という漢字は、見ればわかる通り、形が非常に不安定ですよね。五味さんの言い方をすると、このパラパラしている姿が私たちの不安定な心とすごくマッチしている。だからこそ、私たちは生きているってことを実感できるんじゃないか。もし揺るぎない考えとか言ってる人がいたら、考えの思考停止、イコール死んでるのと同じだよっていうこともおっしゃってました。コロナ禍で学校や仕事は大部分形を変えてますよね。リモートワークというものができたりとか、授業も家にいながらリモートで受けることができるようになりました。そんな今だからこそ、今まで当たり前だと思ってやってきたこと、やらされてきたことが、本当に必要なことだったのか、本当に自分がやりたいことだったのか、そのことを問う大事

なきっかけなんじゃないかって五味さんがおっしゃってるわけですね。つまり今は私たち自身が変わっていく大事なチャンスなのです。私たち人間が生きていく上で、不安というものとどう向き合うか。不安をなくそうと思ってもできないのです。

## ◎安心という生き方

実は「安心」という言葉は仏教から来えます。仏教では「あんじん」と読みます。どういう意味かというと、不満や不安、後悔がないのが安心した生活ではなく、浄土真宗の親鸞聖人の教えるところによると、私たちは不安とか不満とか後悔をどうしても抱えながら生きてる。それを本当に丸ごと引き受けて生きていけるのがこの「安心」であるということをおっしゃってます。不安の反対ではなくて、不安や不満、後悔を全て私達の生き方なんだと引き受けて歩んでいけることを「安

心」ということで表すわけです。これが非常に大事だなと思うんです。だから親鸞聖人ご自身も、この不安とか、後悔とか、そういうことを常に大切にして生きていかれた。そして、私たち人間は所詮不安や後悔を抱えて生きていくことしかできない。だから救おうとされている阿弥陀さんが後ろから背中を押ししてくれてるんだから、安心して、命ある限り生きていこうということをお親鸞聖人は、ご自身の生涯を通じて私達に示して下さってるのです。

二〇二一年十月 報恩講にて 釋 創龍

## 七五三でどいやる？

毎年十一月ごろになると、浅草には華やかな着物姿や羽織袴姿のかわいいお子さんたちをよくお見掛けします。七五三のお参りで浅草神社等に向かわれているのでしょうか。履きなれていない草履をつっかけながら笑顔で歩く姿を見ると、他人ながらもほほえましい気持ちになるものです。

さてそんな七五三ですが、お寺でもお参りできるのをご存じでしたか？あまり知られてはいませんが、実はお寺でもできるんです。ご本尊にお参りすると同時にお子様の成長をご先祖様にご報告することもできるのでおすすめてです。

そもそも七五三とはどのような風習なのでしょう。諸説ありますが、もともと平安時代に行われていた、三歳の「髪置き」、五歳

の「袴着」、七歳の「帯解き」の儀式が起源であるといわれています。現代と違って昔は平均寿命もだいぶ短かったので、子どもの成長というものが特に気になるものでありました。そのためこのように子どもの節目に成長を祝い、子どもの長寿と幸福を祈願していた、それが現在にも受け継がれてきたわけです。

それでは神社とお寺の七五三の意味合いにはどのような違いがあるのでしょうか。神社での七五三は先ほど申し上げた通り、これからの子どもの成長を祈願しますが、浄土真宗のお寺では祈願することはありません。祈願するということ自体はとても素晴らしいことで親の愛にあふれた行為です。ですが、実際はどうでしょうか。私たち人間は煩惱があり、生きている限りはいろいろなことに悩み苦しみ、そして悲しい経験もしなければなりません。それは小さな子どもも同じでしょう。祈願という行為は現実的にいまを生きる上での

悩みや苦しみ、悲しみを取り除くことはできません。そんな私たち人間に常に一緒に寄り添ってくれる存在が仏さま（阿弥陀如来）なのです。阿弥陀如来は私たち人間の本質を知り、その上で皆を平等にお浄土へと救ってくださる誓いをしてくださいました。だから私たちは自信をもって、悩み苦しみながら生きることも、私たちのいのちなんだということを知れるわけです。こうした日々の歩みの支えとなるいのちの教えは、子どもの未来にとってどれほどの力となり支えとなってくれることでしょうか。

また、親からしてみれば子どものこれからの無事を願うということは、七五三の時だけではなく、ずっと尽きない願いであります。あまり良い言い方ではありませんが、私たち人間の願いというのはきりがないのです。だからこそお寺では祈願することなく、七五三というご縁に、仏教のいのちの教えにご家

族で触れていただくことによって、毎日の歩みをより強いものにしていくという意味があります。

ぜひ七五三という行事の意味をあらためてご理解いただいて、お気軽にお寺での七五三という選択肢もご検討いただければ幸いです。



## 備忘録 法事の準備

### ○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、ご家族で法要希望日をお決めになりお早目にお寺へご連絡ください

### ○当日必要なもの

・お布施(ご先祖さま合同で実施する場合は、  
ご先祖さま毎に包みを分けて下さい)

・お花代(本堂にお飾りする

お花代で、一万円の実費)

### ○ご希望によってお持ちください

- ・お供物
- ・過去帳やお位牌
- ・遺影(小さいもの)

### ○服装は華美でなければ平服でも結構です。

(ご参加される方同士でお話しされてお決めください)

※お寺へお包みいただく表書きは全て「布施」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」や「霊前」という言葉は用いません。



## 備忘録　　くお焼香作法く

### ○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出てご焼香ください

### ○お焼香作法

・焼香机の前に進み、合掌せずにご本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒（香入れ）の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を二回、香炉にくべます。（お香を額に頂くことはしません）お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

## 備忘録　　くお葬式についてく

### ○事前のご相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆつくり検討する時間がありません。お寺にご連絡いただければ葬儀までの流れなどご不明、ご不安な点のご説明もさせていただきます。

### ○葬儀の場所

基本的にどちらにでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいておりますので気にせずにご依頼ください。

また、可能な方はぜひお寺でご葬儀を。故人が生前ご縁のあった等覚寺の本堂で、あたたかくおごそかなご葬儀をすることができます。

### ○葬儀の布施

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではなく、亡くなった時をご縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽にご相談ください。

## 備忘録

### 〓納骨について〓

#### 〇納骨のみはお受けできません

永代供養墓ではなく一般墓地をご利用の場合、浄土真宗の教義に則って、葬儀式をお勤めしてからのご納骨となります。式のやり方のご希望等ご相談に乗れる部分もありますので、必ず火葬前にご連絡ください。

## ご披露

### 等友へのご懇志

加藤伊知郎様 高橋愛子様（順不同）

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立っております。

## 編集後記



こんにちは。翔です。今回は七五三について取り上げてみました。僕のまわりを見ても、やっぱり七五三といえば神社というイメージですよ。長男の五歳ということで、七五三のお参りを等覚寺で行った様子を紹介させていただきました。やってみて思ったのは、神社でやるよりも人が少ないのでゆっくり写真が撮れるってことでした（笑）子どもは自分の想定外の動きをするので、なかなか予定通りに事は進みませんよね。そんな時でもお寺の境内は七五三シーズンの神社に比べればあまり人がいないので心に余裕ができて、あせらずに写真撮影もできました。子どもとゆっくりと過ごす七五三もなかなかいいかもしれません。

# 令和四年行事予定

三月二十一日（月）

彼岸会・永代経

三月十八日～二十四日

春のお彼岸

七月十三日～十六日

お盆

七月十六日（土）

盂蘭盆会法要

九月二十日～二十六日

秋のお彼岸

十月二十三日（日）

報恩講

◎お気軽にご参加ください。

※あくまで予定です。

開催が確定した行事は必ず事前にご案内いたしますので、別途ご確認ください。



# 令和四年年回表

一周忌	令和三年
三回忌	令和二年
七回忌	平成二十八年
十三回忌	平成二十二年
十七回忌	平成十八年
二十三回忌	平成十二年
二十七回忌	平成八年
三十三回忌	平成二年
三十七回忌	昭和六十一年
四十三回忌	昭和五十五年
四十七回忌	昭和五十一年
五十回忌	昭和四十八年
七十回忌	昭和二十八年
百回忌	大正十二年